

教養科目

科目名	社会学			担当者名	石綿 寛		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	この授業を履修することにより、学生は社会学の基本的な考え方、理論や概念について理解を深め、さまざまな社会事象について検討することができるようになる。						
授業の概要	社会学の基本的な理論、概念、方法論的立場について講義を行う。社会と個人をめぐる理論や考え方を、現代の社会変化を考慮したうえで紹介し、具体的な社会事象との関連性についても論じる。						
準備学習の内容	参考書など、社会学関連の書籍に積極的に親しみ、授業内容に対する関心を育むことを期待する。また、レポートの作成のために、各自で自習することが望まれる。目安となる時間は2時間程度とする。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会学とはどのような学問か(1) 2 社会学とはどのような学問か(2) 3 社会学とはどのような学問か(3) 4 個人と社会：社会規範について 5 アイデンティティについて(1) 6 アイデンティティについて(2) 7 アイデンティティについて(3) 8 逸脱と排除(1) 9 逸脱と排除(2) 10* 組織と近代(1)：官僚制 11 組織と近代(2)：ネットワーク 12 暴力の変化(1)：世界システム論 13 暴力の変化(2)：世界システム論の変化 14 暴力の変化(3)：事例研究 15 労働の意味(1)：労働の概念とは 16 労働の意味(2)：労働を巡る制度の変遷 17 コミュニケーション(1) 18 コミュニケーション(2) 19 家族：制度としての家族 20* 都市と地方(1)：地方と近代化 21 都市と地方(2)：都市と近代化 22 貨幣について 23 近代とポスト近代(1)：構造主義からポスト構造主義へ 24 近代とポスト近代(2)：社会の近代化からの変化 25 社会学の方法論を巡って(1) 26 社会学の方法論を巡って(2) 27 社会学の方法論を巡って(3) 28 まとめ <p>【教職員間授業公開日：5/21(月)、6/25(月)】</p>						
評価方法	出席および授業参加(35%)、リアクションペーパー(35%)、レポート(30%)						
テキスト	特になし。プリントを配布して授業を進める。						
参考書	西澤晃彦・渋谷望著 2008年『社会学をつかむ』(有斐閣)						
その他特記事項							